（信州大学留学生センター紀要第１号　2000年３月）

イギリスの公教育における日本語教育

山本　もと子

キーワード：イギリス、日本語教育、大学、学習動機、日本語の知名度

要旨

イギリスの高等教育における本格的な日本語教育は1942年にSOAS（School of Oriental and African Studies）で始まった。1947年にはCambridge Universityで、また1963年にはOxford Universityでも開始された。そして、1990年代に入るとイギリス各地の大学が日本語関係のクラスを開設するようになった。1997-98年には51の大学で約2800[1]名以上の学生が日本語関係のクラスを受講した。しかし、その多くは補助科目[2]として日本語を学んでおり、日本語または日本研究のみを専門的に研究する学生の割合はそれほど多くはない。なぜなら他の外国語、特にフランス語等のヨーロッパ言語に比べて、日本語の必要性が低いからである。訪日して研修を行わせている大学も多数あるが、高額な費用や渡航上の手続き等の問題を抱えている。

１．はじめに

イギリスの日本語教育の歴史は1903年にまでさかのぼるが、本格的な日本語教育は1942年にSOASで始まった。大庭定男の『戦中ロンドン日本語学校』（1988）によると、当時の敵国日本国の言語を有能な若者に習わせ、通信を傍受したり、押収した書類を翻訳したり、また捕虜を尋問して情報を取ったりするためであった。戦後この若い日本語学校の生徒の中から、イギリスの日本語教育に偉大な貢献をした多数の学者が出た。

1980年後半からイギリスでの日本語学習者は急増し、現在では大学等の高等教育機関で行われている日本語教育の学習者数はかなりの数に達している。ロンドンの国際交流基金の日本語センターで働いているInformation/Programme AssistantであるMs. Sarah Haighのデータによると、1997／8年度では51の大学が日本語教育または日本研究を行っており、日本関係のクラスを受講している学生数は2862名であった。しかし、**【資料1】**のMinor CoursesとUntitled Coursesでは外国語の選択科目の一つとして日本語クラスが設けられており、それを１～３名の講師が教えているのが実状である。つまり、人文系学部や外国語学部以外の学生が語学科目として日本語を選択しているか、学位取得のための科目（例えば経済学や言語学など）の補助科目として日本語を学んでいるのであって、専門的に日本語や日本研究を行っている学生は多くない。本稿はこうした高等教育機関で行われている日本語教育の実態を明らかにすることを主目的とする。

２．現在の日本語教育事情

イギリスでの高等教育における日本語教育に関する包括的かつ詳細なデータは、国際交流基金と大和日英基金が制作した*Japanese 1996-7 Degree Courses in Universities and Other Tertiary Education Institutions in the United Kingdom*（大和日英基金、1997）［以下*Japanese 1996-7*］に記されている。筆者はそのデータを

基に、1996 / 7 年度に日本語及び日本文化関係のクラスを開催している全ての高等教育機関〔以下「大学」〕49大学に対して e-mail を使って、質問用紙（本稿末に添付）を送った。残念ながら、すでに担当者が変わっている為に連絡が取れない大学や、回答が帰ってこなかった大学も多数あった。しかし、回答結果を見る限り、クラス構成は1996 / 7 年度の調査とあまり変化していない。そのために *Japanese 1996-7* のデータも活用した。

まず始めに、ロンドンにある国際交流基金の日本語センターの Ms. Sarah Haigh から得たデータを基に、1999年の英国での日本語教育事情の実態を分析する。

2－1．高等教育レベル

1998年の調査の結果、日本語を勉強している学生がいる大学はイギリス全土に51校あり、学生数は合計2862名である。その人数の一部は主専攻として日本語を学んでいる学生であるが、他の多くの学生は補助教科として日本語を学んでいる。もちろん、修士課程まで勉強することもできる。

2－2．成人教育レベル

日本語の成人教育コース（Adult Education Course）をとっている人々もいる。その多くは仕事の為にまたは趣味として夜間コースに通っている。これら夜間コースにあるのはほとんど初級クラスであり、より高度な学習をしたい人々にとって、ロンドン以外で上級クラスを見つけるのは難しいのが現状である。また、社会人のための私立外国語学校もたくさんある。それらは、学習者のニーズに合わせて様々なコースを提供しているが、それゆえに授業料が高額であるのが難点である。

2－3．中等教育レベル

現在、イギリスでは日本語を教えている中等学校（11歳から16歳または18歳）が約250校ある。これらの多くは試験科目として日本語を教えているのではなく、第 6 学年（16歳～18歳）用に実験的に作られたコース（Taster Course）か、特別教科活動（Extra-curricular Activity）として教えているというのが実態である。 それゆえに中等学校で日本語を教えている大多数の教師は非常勤講師か、フランス語やドイツ語等の他の教科を主教科として教えている教師である。

2－4．日本語教師養成について

ロンドンには日本語の母語話者を対象とした日本語教師養成コースが SOAS、Institute of International Education in London（英国国際教育研究所）等 4 校ある。それに加えて、University of Nottingham ではフルタイムで 1 年間の PGCE（Post Graduate Certificate of Education）のコースもある。PGCE とはイギリスの国立中等学校で教えるのに必要な資格である。日本語学科の PGCE Courses を卒業した学生の多くは日本語の母語話者ではないが、イギリスの国立中等学校で他の科目に加えて日本語を教えたいと考えている。

以上のことから明らかになるように、イギリスでは中等教育、高等教育、また成人教育において幅広く日本語を学習する機会があると言ってよいであろう。

3．*Japanese 1996-7* の分析

まず、1996-7年度の高等教育機関での日本語教育の実情を明らかにするために、*Japanese 1996-7* のデータを分析した。以下は、その結果である。

3－1．大学

① 1996-7年度の調査では47の大学が学位取得のための単位として日本語教育を行っている。

② 1997年にはSingle Honours Courses（【資料1】参照）がCambridge University, University of Durham, University of Edinburgh, Oxford University, SOAS, University of Sheffield, University of Stirlingの7校で行われていた。1996年には46名の学生が、Single Honours Japaneseの学位を取得し卒業した。

③ また、Major / Joint / Dual / Combined Degree Coursesの学位取得コースとして日本語教育を行っている大学は、上記に述べたCambridge University, University of Durham, University of Edinburgh, SOAS, University of Sheffield, University of Stirlingに加え、King Alfred's College of Higher Education, University of Leeds, Liverpool John Moores University, University of Newcastle upon Tyne, University of Ulster, University of Wales Cardiffの12校である。1996年には145名の学生がMajor / Joint / Dual / Combined Honors Japaneseの学位を取得し卒業した。

④ ①に述べた47大学のうち、72%にあたる合計34の大学では、学位修了のための単位として日本語を扱っているが、日本語そのものはMinor（Titled）Courses、あるいはAccredited（Untitled）Coursesとしてしか扱っていない。1996年には82名の学生が"with Japanese"か"with Language"を含めたJapanese Minorの学位を取得し卒業した。

⑤ 主な学位科目に加えて日本語を補助教科として学習する学生が、コースの細分化により増えている。この場合の修学期間は6週間から4年間と広範囲にわたっている。

3－2．大学院・博士課程

① 1996年における博士課程を除いた大学院コース（Taught Postgraduate CoursesとNon-taught Postgraduate Courses）では、127名の学生が修了した。

② 1996年に4人の日本研究博士課程（Ph.D.）の学生が、日本研究学科の指導のもとで修了した。2000年に向けてのPh.D.研究プロジェクトの数は31件ある。1996-7年度は日本研究学科の指導のもとで研究していた博士課程の学生は78名で、そのうちの35名（45%）はOxford Universityに所属し、28名（36%）はUniversity of Sheffieldに所属していた。

3－3．スタッフ

① 日本語研究が行われている学部のうち、日本語研究や日本研究に携わっているスタッフ数は196名である。そのうち、フルタイムのスタッフは121名（62%）であり、パートタイムは75名（38%）である。196名のうち、日本語の母語話者は96名（49%）である。さらにその96名中、フルタイム48名、パートタイム48名である。

② 多くの大学が日本国籍の講師を雇用することに関して問題を抱えている。まず、わざわざ日本に出向いて、確かな機関に保証されている日本語講師を探すのは非常に困難であり、費用もかかる。一方、イギリスの大学を卒業した日本人を雇用したい場合でも学生ビザをワーキング・ビザに変更するのはかなり難しい。

3－4．書籍と資料

① 英語または日本語で書かれた日本関連の書籍を5000冊以上所有している機関はCambridge University, University of Durham, University of Edinburgh, University of Leeds, Oxford University, SOAS, University of Sheffield, University of Stirlingの８校である。

② 全ての大学において日本関連の書籍や資料の一年の経費は0～80,000ポンドである。全くそれらを購入しなかった大学は、図書館に日本関連の書籍を置くための分類棚がなかったり、書籍購入の予算配分がなかったため、購入できなかった。

③ 多くの図書館では、資料購入のための予算削減に加え、書籍値段の高騰と為替相場の変動により書籍や資料の購入が難しくなってきている。

3－5．日本留学（Study Tour）

① 必修科目として日本留学［以下「留学」］を行っている大学は、学部レベルではCambridge University, University of Durham, University of Edinburgh, European Business School, University of Leeds, Liverpool John Moores University, GMCJS, University of Newcastle upon Tyne, Oxford University, University of Reading, SOAS, University of Sheffield, University of Stirling, University of Sussex, University of Ulster, University of Wales Cardiffの16校であり、大学院レベルではない。

② オプショナルで留学を行っている大学数は、学部レベルではUniversity of Birmingham, University of Buckingham, Royal Holloway, SOAS (The Language Centre), Sheffield Hallam University, University of Westminsterの６校であり、大学院レベルではUniversity of Bath, University of Essex, University of Nottingham (PGCE)の３校である。

③ 1996年に学部在籍中の一定期間に、学位取得のための単位として留学した学生は253名である。

④ 留学を行っているすべての大学にとって一番の問題は高額な留学費用である。一年間の留学費用の平均は4,000～14,000ポンドである。この差額は日本のどの地方に留学したかによる。

⑤ 日本の大学に姉妹校を持つ大学間での留学は増加している。留学を日本語の単位として認め、日本の大学と公的に姉妹校関係にあるイギリスの大学（総合高等学校をも含む）は29校[3]ある。一方、それらの大学と姉妹校関係にある日本の学校は67校ある。留学する学生数の増加に伴って、学生が日本国際教育協会（AIEJ / Association of International Education, Japan）の奨学金に応募することができるようになった。この奨学金は「海外と日本の大学双方で交換留学が合意されており、日本の大学に最長１年間留学する資格がある海外の学生」が対象になる。

⑥ 留学必修の大学における留学時期は様々であるが、一番多いのは第２学年か第３学年に１年間留学することである。

【資料1】

	日本語を専攻している学生が日本語を学習する時間の割合
Single Honours	100%
Major	50%以上
Joint / Duel	50%
Combined	25%以上50%以下
Minor	25%以下（「日本語」修了が言及された学位）
Untitled	学位には明記されない１つ以上の「日本語」か「言語」を取っている

以上は*Japanese 1996-7*を資料として考察した結果であるが、以下は筆者の調査結果とその考察である。

4．筆者による調査

4－1．E-mail 利用による質問形式の調査概要

まず、本調査は*Japanese 1996-7*を活用し、そこに掲載されているすべての大学を調査対象とした。そして各大学の日本語講座の責任者に e-mail によって質問用紙を送り、その回答を集約した。調査概要は以下の通りである。

4－1－1．目的

現在、イギリスの高等教育においてさまざまな形で行われている日本語教育の実態を明らかにすることである。

4－1－2．方法

*Japanese 1996-7*に日本語教育が行われている大学として掲載されている全ての学校を調査対象とし、原則として日本語講座担当者または講座責任者に e-mail を利用し質問用紙を送って、情報収集を試みた。

4－1－3．調査項目

調査項目には、日本語講座数（レベル別）、受講者数、教師数、卒業後の職業、イギリスで日本語を教える為の資格の有無、学生の主な学習動機、他の外国語と日本語を比較した意識調査、問題点などである。本稿末に質問用紙の見本を添付。

4－2．回収率

まず、大和日英基金が制作した*Japanese 1996-7*に記されているデータを基に、1996 / 7 年度に日本語及び日本文化関係のクラスを開催している全ての高等教育機関［以下「大学」］49大学に対して e-mail を使って、質問用紙（本稿末に添付）を送った。残念ながら、すでに担当者が変わっている為にどうしても連絡が取れない大学や、回答がなかった大学も多数あり、回収率は24%であった。

回答のあった大学は University of Bath, University of Birmingham, University of Bradford, Cambridge University, University of Edinburgh, Imperial College of Science Technology & Medicine, University of Leeds, University of Luton, University of Nottingham, University of Stirling, University of Sunderland の12校（24%）である。

すでに担当者が変更され記載のメールアドレスが配信不能だったものが、University of Buckingham, University of East Anglia, European Business School, University of Hull, Lancaster University, University of Manchester, University of Manchester Instituten of Science & technology, Manchester

Metropolitan University, Oxford University, University of Salford, Sheffield Hallam University, University of Sussex, University of Wolverhampton, University of york の14校（29%）である。

回答のなかった大学は上記以外の23校（47%）である。

4－3．調査結果

【資料2】

（　）内は1996-7年度の数字

大学名		クラス数		学生数		教師数 フルタイム		教師数 パートタイム	
University of Bath		大学院生のみのクラス				0	(3)	0	(0)
University of Birmingham		14	(12)	314	(180)	3	(4)	6	(7)
University of Bradford		0	(3)	0	(38)	0	(2)	0	(1)
Cambridge University		8	(8)	18	(40)	8	(9)	0	(0)
University of Edinburgh	言語専門	2	(2)	16	(5)	4 補助3	(3)	1 補助2	(0)
	言語専門外	6	(3)	124-190	(118)				
Imperial College of Science, Technology & Medicine		4	(3)	120 夜間80	(128)	無回答	(0)	無回答	(2)
University of Leeds		11	(11)	320	(112)	無回答	(6)	無回答	(0)
University of Luton		6	(6)	25	(33)	0	(1)	1	(1)
University of Nottingham		3	(3)	67	(80)	2	(0)	2	(2)
Nottingham Trent University		3	(3)	100	(93)	1	(0)	0	(1)
University of Stirling		16	(17)	約125	(70)	6	(8)	0	(0)
University of Sunderland		3	(2)	46	(56)	1	(1)	1	(1)

＊University of Bradford は1997年に日本語クラスを閉講した。

上記の結果から、*Japanese 1996-7* のデータより受講者数はかなり増加しているが、クラス構成は重大な変化をしていないことがわかる。

4－4．日本語主専攻の大学と日本語補助科目の大学の比較

次に、上記の大学から Single Honours Courses が開設されている Cambridge University と Minor Courses が開設されている University of Sunderland を比較してみた。

1）Cambridge University

設立年…… 1947年

生徒数…… 18名

教師数（フルタイム）… 8名

教師と学生の割合…… Part Ⅰ（1：15），Part Ⅱ（1：7）

留学…… 1996／7 から Single Honours の日本研究の学生のみ第3学年の1年間（Part Ⅱの始め）に1年間の留学を必修科目にした。

コース概要（学部）

Cambridge University では Tripos System（優等卒業試験）を取り入れており，最短なら3年間で卒業できる。成績によって1年間か2年間か個人によって異なる修業期間の Part Ⅰ と通常通り2年間の修業期間の Part Ⅱ に分かれている。

コース概要…… 学部では、Single Honours として Oriental Studies (Japanese Studies), Oriental Studies (Japanese with Chinese), Oriental Studies (Chinese with Japanese) の3講座に加え、Maths Part I (Japanese Studies), Oriental Studies Part I (Japanese Studies), Social & Political Science Part I (Japanese Studies), Oriental Studies Part I (Japanese Studies) など Part I で別の科目を学習し、日本語と組み合わせて学位を取得する学生がいる。

Japanese with Chinese の場合、第3学年での留学はしないで、Part I で日本語のみ、Part II で中国語70%：日本語30%を学習する。一方、Chinese with Japanese の場合、留学なしで Part II で日本語70%：中国語30%を学習する。

2) University of Sunderland

設　立…… 1993年（1986年に公開講座を開始）

生徒数…… 約46名（初級25／準中級11／中級10）

教師数…… フルタイム1名・パートタイム1名

教師と学生の割合：… 1：25（最大限）、1：10（最小限）

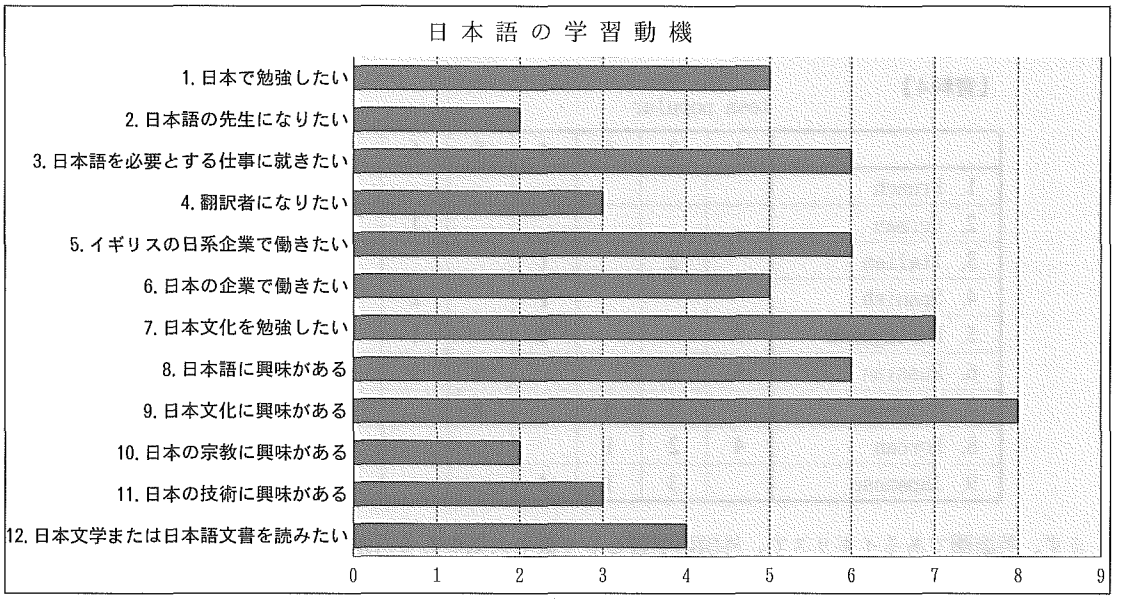
コース概要…… Beginners, Pre-intermediate, Intermediate の3クラス

訪日研修…… 選択

4－5. 学習動機

学生の日本語を学ぶ動機は以下のように様々なものがある。

【資料3】



以上のことから分かるように、学習動機として最もポピュラーなものは「日本文化に対する興味」である。次いで、就職に向けて日本語を勉強したいと考えている学生も少なくない。

University of LeedsのDr. Penny Francks (Senior Lecturer in Japanese Studies Department of East Asian Studies) によると、日本語の学習動機として一般的に挙げられるのは「未知の言語に対する学習意

欲」や「日本文化に対する興味」である。特に最近の傾向では、日本の格闘技や漫画ブームの影響を受けて日本に興味を持ち始める学生もいるようだ。また、日本人の両親がいたり、日本滞在経験があるなど、日本と何らかの関わりを持っている学生が「もっと日本を知りたい」と学習を始めることもある。

また、University of Nottingham の Ms. Elaine Oliver (Acting Director of the Language Centre) は「工学部の学生の中には日本語で書かれた専門書を読むために日本語を習い始めた者もいる」と述べている。

その一方で次のような意見もある。University of Luton の Ms. Magdalena Pletsch (Lecturer in Japanese) によると、日本への興味は表面的なもので、単に日本語を学ぶことで満足してしまい日本文化研究にまで進もうと考える学生は少ない。

4－6. 卒業後の進路および職種

学習動機の結果【資料3】から推測できるように、日本語教師になるために学んでいる学生は少なく、銀行や金融関係 (Cambridge University)、企業や報道関係 (University of Stirling) というように、別の職業をするにあたって有益なので日本語を学習するようである。また、教師になるために勉強している学生もいるが、彼らは別の教科を専門としていて、さらに日本語も教えることができるというように補助科目として学んでいる。

4－7. 教職免許

University of Edinburgh の Mr. Ian Astley によると、イギリス国内の学校で教える為には、大学院教職免許 (the Postgraduate Certificate of Education) を取得するのに1年間勉強する必要がある。しかし、特に日本語教師免許は必要ない。

4－8. 日本語に対する意識調査

次に、日本語学習が他の外国語学習と比べてどれだけ人気があるかを調査した。

【資料4】

less popular　　most popular

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1. French										8
2. German						1	1	3	3	
3. Italian		2		1			4	1		
4. Spanish				1		2		3	1	1
5. Portuguese	3			3		1				
6. Russian	1	3			3	1				
7. Chinese		3	3		1		1			
8. Korean	4	2	1							
9. Japanese		3	1	3						

まず、英語圏であるイギリスで、外国語学習として最も人気のある言語はフランス語である。次いで、ドイツ語、スペイン語、イタリア語と続いた。フランス語とドイツ語の人気が高いのは、それらが GCSE (General Certificate of Secondary Education：大学入学の際にレベル判断資料となるもの) の試験科目に必要なためである。その後に、それほど大きな差も無くロシア語、ポルトガル語、中国語、日本語、韓国語と続いている。ヨーロッパ諸国と隣接しているイギリスでは当然の結果だが、全体的にアジアの言語はヨーロッパ言語に比べて大衆性が低い。

私達日本人は競って英語教育に熱を上げているが、それは英語が国際語だからである。その他のドイツ語やフランス語は職業上で必要か、大学で専門的に勉強する人々以外はそれほど興味を示さない。せいぜい大学の一般教養科目として習うぐらいである。同じことがイギリスでの日本語教育に関して言えるのではないだろうか。

5．公教育における日本語教育が抱える問題点

アンケートに以下のような問題点が指摘された。今後のその詳細について検討したい。

① Cambridge University… 日本の大学に留学をする時に、イギリス（9月入学）と日本（4月入学）の年度開始時期が異なるので単位取得の問題が発生する。

② University of Edinburgh… もっと時間とお金と書籍が必要である。

③ University of Luton … 日本語学習を持続する為の興味が希薄すぎる為、長続きしない。

④ Nottingham Trent University… 選択科目として日本語を学習するだけで満足している。

⑤ University of Sunderland… スタッフの不足と政府の援助の不足。

Japanese 1996-7 によれば、日本語教育に関した問題点としては、どの大学も大学側の予算削減と書籍値段の高騰によって日本語や日本関係の書籍を購入するのが難しくなってきたことである。今後、イギリスにおいてもっと日本語教育が盛んになれば、費用の援助が必要になるであろう。しかし、現段階では難しいと考えられる。なぜならば、筆者の英国体験の経験から判断すると、多くのイギリス人にとって日本はまだまだ未知の国であり、それほど日本への関心が強くないからだ。確かにロンドンでは日本人の姿をよく見かけるし、日本料理店もあるし、日本ブックセンターもあるので日本の情報を手にいれる事ができる。しかし、テレビやラジオで日本のニュースが流れることはほとんどないので、ロンドン郊外に出ると日本に関する情報は極めて限られている。今後は、日本語教育を盛んにするためにも、もっと積極的に日本文化について紹介する必要がある。

6．おわりに

今回の調査では、イギリスにおける日本語関係のクラスは1980年代からかなり増設されてきているが、その多くは補助科目として日本語を学んでおり、日本語または日本研究のみを専門的に研究する学生の割合は多くないことがわかった。主な日本語の学習動機は「日本への興味」だが、最近では日系企業への就職を考えて学習し始める学生も増加してきた。しかし、他の外国語学習に比べて、日本語学習の大衆性は低く、フランス語を始めとするヨーロッパ言語に大きく差がついている。日本をもっと身近に感じるために留学を必修単位にして、日本の大学と親睦を図っている大学も増加してきている。しかし、留学に関しては、学年度の開始時期が異なっていることや高額な費用などの問題を抱えているので、今後も検討する必要がある。
今回は大学のみに視点を当てて調査を進めたが、初等・中等教育では日本語はどの程度大衆化しているかを調査する予定である。

【注】

1） *Japanese 1996-7* によると、確実に日本語コースを修了したかどうかを調べるのは非常に困難なので、統計上は受講登録した学生数をカウントしている。

2）つまり subsidiary subjects, “Economics with Japanese" や "Linguistics with Japanese" などのように日

本語で経済学や言語学の講義をする授業科目。経済学や言語学など「主要科目」に対して、本稿ではこの日本語を「補助科目」と称した。

3）総合高等学校とは中等学校に続く職業専門学校の総称。工業系、農業系、芸術系などがあり就業機関は3～4年。

【参考文献】

太田　　亨　1999「ブラジルの公教育における日本語教育」『金沢大学留学生センター紀要』第2号。PP. 67-81.

大庭　定男　1988『戦中ロンドン日本語学校』中公新書

【参考資料】

Japanese 1996-7 = Japanese 1996-7 : Degree Courses in Universities and Other Tertiary Education Institutions in the United Kingdom, The Daiwa Anglo-Japanese Foundation (1997)

Questionnaire about Japanese Studies at University

Q 1. How many Japanese classes do you offer?
(Including the Japanese language and Japanese studies, such as history and culture.)

Q 2. How many students are enrolled in these classes?
(Including students who graduated in 1999.)

Q 3. How many teachers teach these courses?
1. Full-time teachers 2. Part-time teachers

Q 4. What kind of jobs do students who majored in Japanese Studies get?

Q 5. Can they become Japanese teachers in the UK or does this require a special license?

Q 6. What motivation do students have? Please circle all applicable responses.

1. To study in Japan
2. To become a Japanese teacher
3. To get a job which requires Japanese
4. To become a translator
5. To work for a Japanese company in the UK
6. To work for a company in Japan
7. To study Japanese culture
8. Interest in the Japanese
9. Interest in Japanese culture
10. Interest in Japanese religion
11. Interest in Japanese technical skills
12. Ability to read Japanese literature or documents
13. Others (Please give a concrete example.)

Q 7. Which foreign languages do you think are the most popular in the UK?
Please tick a number from 1 to 10 (10 being the highest).
ex. If you think French is very popular in UK, you can tick 10.

less popular most popular

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1. French										
2. German										
3. Italian										
4. Spanish										
5. Portuguese										
6. Russian										
7. Chinese										
8. Korean										
9. Japanese										

10. Others (If you think other language is popular except them, please write down the language.)

Q 8. Do you have any problems with the Japanese Studies program at your university or in general? If so, please elaborate.